



The Garden of Medicinal Plants, Kinki University



## スイセン

学名 : *Narcissus tazetta*

生薬名 : 水仙根

薬用部位 : 鱗茎

薬効 : 排膿、消腫



初冬から春にかけて清楚な花を咲かせるスイセン。雪の中で春の訪れを告げるので、別名を雪中花といいます。ヒガンバナ科の球根植物で約30種あり、ヨーロッパでは古くから園芸用に品種改良が始まって、現在1万を超える品種が登録されており、ラッパズイセン、大杯、小杯、八重、クチベニズイセンなどに分類されています。各地の沿岸に多く見られ、スイセンが県花の福井県は越前海岸、兵庫県は淡路島などの群生地が水仙郷として観光地になっています。

学名の「ナルキッソス」は、ギリシャ語で「麻痺」を意味する「ナルケ」に由来し、スイセンの鱗茎が有毒で神経を麻痺させることから付いた名とされています。別の説では、ギリシャ神話で美少年ナルキッソスが、多くの妖精たちの恋心を受け入れなかったために、水面に映る自分の姿に見惚れて、恋焦がれるよう復讐

の女神に仕向けられ、毎日眺めていても叶わぬ恋にやがて疲れ果てて死んでしまい、その池のふちで花首を下に向け、のぞき込むように咲いていた花を「ナルキッソス」と呼ぶようになったという説もあります。また、この神話から「ナルキッソス」が「ナルシスト」の語源にもなりました。

薬用では、生の鱗茎をすりおろした汁に小麦粉を加えて、消腫薬として打ち身、肩こり、できものに塗布するという方法がありますが、特に葉～鱗茎にはリコリンなどのアルカロイドを含み有毒なので内服してはいけません。葉はニラに、鱗茎はタマネギに似ているため誤食事故も少なくありません。

(写真提供:薬学部 岩城正宏 教授)